

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902249		
法人名	有限会社 永翔		
事業所名	グループホーム であい I		
所在地	旭川市東光16条7丁目3番15号		
自己評価作成日	令和2年11月3日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902249-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和3年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年にはコロナの感染症拡大によりボランティアの受け入れもできない状況が続いており、外出行事もできませんでした。それでも個別に天気のいい日に散歩にでかけたりする事ができました。屋内では職員が入居者の前でお好み焼きや焼きそば、かき氷を作ったりして一緒に食べました。夏には中庭でジギスカンパーティーを行い、大変好評でした。9月には敬老会を開催し入居者のご家族によるバンド演奏もを行い、感極まって涙ぐむ入居者もありました。12月には各階でクリスマス会も行い、大いに盛り上がりました。大きな行事はできませんでしたが、入居者と職員と一緒にレクをしたり会話したりする事で日常生活の中で小さな喜びや楽しさを見つけてもらえるよう工夫してきました。施設で生活する時間が増えた分、入居者一人ひとりにしっかりと目が行き届くようになったと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は環状1号線近くに大型スーパーや小学校、中学校があり、交通の利便性がよく閑静な住宅街の恵まれた環境にある、木造2階建て2ユニット(定員18名)のグループホームである。共用空間は明るく清潔に保たれ、壁には季節の飾りつけされている。新型コロナウイルスの為に、温度・湿度管理するだけでなく、定期的な換気をしたり、徹底したアルコール消毒を施す等、感染症予防を実施している。居室はゆったりとした間取りで、トイレが各居室に備えられ、プライバシーが守られている。事業所理念の「思いやり・生活にうるおい・感謝の心」を実践して職員は利用者に明るく接し、言葉かけにも気を付けている。コロナ禍の為に地域住民との交流はないが、町内会とは災害時の協定書を交わし緊急時の協力を得られる体制ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し介護の実践につなげている。	一人ひとりの個性を生かせるよう理念を玄関に掲示し、職員は会議等を通じて話し合い共有化を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのせいもあり、運営推進会議も中止せざるを得なかった事もあり、例年よりも地域とのつながりや交流も少なかった。	茶やお花のボランティアが来干したり、町内会と災害時の協定書を交わすなど、地域との交流や連携に取り組んできたが、コロナ禍により交流は自粛中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げて認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響もあり、地域の人々との交流が少なかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響もあり運営推進会議は中止していたが、10月より再開しており、意見を伺いながらサービスの向上に努めている。	年に6回、地域包括支援センター職員や町内会代表、地域住民、利用者家族などが参加して会議を開催していたが、コロナ禍により書面会議となり、感染症予防対策や活動状況等の報告書を各参加者に送付して、得られた意見や助言を運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	どんな些細な事でも相談し助言を求めながらサービスの提供ができるよう努めている。	市担当者や地域包括支援センター職員とは、介護保険の更新や生活保護手続き、感染症予防関連などについて相談し助言を得ている。コロナ禍で手続きは直接行いが、相談事や報告などは電話やメールで行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護スタッフ全員が身体拘束をしない具体的な行為を正しく理解している。必要時には最小限の拘束に止めている。	身体拘束適正化委員会は年に3～4回開催し、職員は身体拘束の弊害や具体的禁止行為、不適切な言動について正しく理解している。具体例による話し合いを行うとともに、内部研修を実施し身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はどんな事があってもあってはならないという認識を全スタッフが持っており、身体拘束委員会が中心となって意識向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がおり、後見人と連絡を取りながら必要な対応をしている。研修への参加はほとんどない為、今後は積極的に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、理解と納得をしていただけるよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等にはすぐに対応するよう心掛けている。運営推進会議の中止により外部に報告する機会がなかった。	コロナ禍により、家族や知人友人の来訪は自粛しているため、以前のように意見や要望を得る機会がほとんどなく、家族には電話で確認したり、年6回発行している「出会い通信」に利用者の写真の他、職員が丁寧に手紙を書いて日々の様子を知らせる等、何でも遠慮なく言える関係づくりをしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回の職員会議で職員の意見を聞く機会を設けている。	管理者は朝夕の申し送り時や月1回の職員会議で、職員の意見や要望を汲みあげるよう努めている。日々のケア活動で利用者との日常的な関わりの中から職員の気づきを会議等で報告し、意見や提案を得ながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に沿って対応している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今までは月1回の職員会議で意見を出し合ってきたが、コロナのため中止になっていた。そのため日常業務の中で様々な意見を出し合い検討し質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の運営推進会議に参加させていただきながら職員交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望を聞き家族と相談しながら、安心して穏やかに過ごせるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とよく話し合い、家族やご本人の要望に沿った満足いくサービスが提供できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要としているサービスを見極め家族とスタッフが協力し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできる範囲の中でお手伝いをさせていただき一緒に歩行訓練をしたり、見守りや声掛けの中安全に過ごせるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意見や希望を聞き家族との信頼関係を築きながら共に支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の拡大により制限はあるが、可能な限り外出や面会、電話でのやりとり等行っていただけるよう努めている。	コロナウィルスによる感染症の対策をとりながら、可能な限り外出や家族の面会等の支援をしている。電話でのやりとり等頻繁に行いながら、家族の関係を密にするよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から様子を見守りスタッフが会話の橋渡しをしたり、一緒にレクや作業を行う事で関わりを持ちながら穏やかな関係性を保てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談があった時にはすぐに対応できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で個人の希望を聞きつつスタッフと一緒にレク等を楽しんでいただけるよう声掛けを行っている。	家族から得た情報や、日頃の行動・表情等を基に、思いや暮らし方の要望や意向をくみ取り、職員間で情報の共有をしている。困難な場合は家族に相談しながら生活歴をひもとき、検討している。	外出や外食などを実施して、利用者の意向や気持ちを把握していたが、コロナ禍により外出の自粛となり、1日のほとんどがホームにいる状態である。今まで以上に入浴や個別に傾聴する等で意向等を知ったり、利用者の特技や隠れた才能などを探り上げていくことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族にこれまでの暮らしを聞きながら把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホール自席で過ごされている時は声掛けし希望を伺い塗り絵やパズルをしていただいている。不安な様子が見られた時は話を聞いて安心していただけるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフが毎月モニタリングを行っている。状態の変化に応じ日頃よりスタッフ間で話し合い、ご家族、ご本人の意見を取り入れながら計画作成を行っている。	家族や利用者の意向を取り入れながら、毎月モニタリングを行い、会議で出た意見や医師の助言を反映させ、短期3か月、長期6か月で現状に即した介護計画を作成し利用者ご家族から確認印を得ている。また、特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活や健康面を個人記録に記入し、職員が把握し変化があれば検討し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態を把握しその都度サービスや支援を変えながら多機能的に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の拡大によりボランティアによるレクは中止しているが、職員を含め全員でゲームをしたり中庭で食事をしたりして楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係も継続しているが、理解が得られれば主治医の変更をお願いし情報共有しながら適切な医療支援を受けられるよう努めている。	利用者と家族の希望に添ってかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。協力医療機関の医師による訪問診療が月1回あり、利用者の健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携先の医師や看護師に情報提供を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院や相談員、医師、看護師と連携を密にし情報交換を行い、早期に退院ができるよう努めている。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際はもちろん、必要に応じて重度化の指針や終末期について説明を行っている。	重度化や終末期のあり方について、入居時に利用者と家族に事業所が対応し得るケアを説明し同意を得ている。重度化した場合は、利用者や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。また、家族や職員、医療関係者が連携協力しながら安らかな看取りの実践をしている。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	急変や事故発生に備え、常に申し送りやミーティング等で実践力を身につけている。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会と協定書を交わしている。また年2回日中、夜間を想定した避難訓練を行い迅速な対応が出来るよう努めている。	コロナ禍により消防職員及び地域住民の参加はないが、年2回昼夜想定した避難訓練を実施している。町内会と災害時の協力体制の協定書を交わしている。				
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人への声掛けには丁寧な言葉遣いで対応し、プライバシーを守り人格を傷つけないよう努めている。	誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けに注意を払っている。トイレ誘導や入浴時など、傷つけないように利用者に優しく接している。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から信頼関係を構築し、ご本人の意思を表現しやすい環境作りに努めている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に答えられるように心がけ、楽しい時間を過ごせるよう支援している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔に保ち、好みの洋服を選んでいただいたりおしゃれをしてもらえるよう支援している。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳時メニューを伝え、盛り付け、具材に大きさにも注意し誤嚥のないよう見守りにも努めている。	職員は日頃の食事摂取の様子から好き嫌いの傾向を把握している。利用者の力を活かしながら、食事の下準備から後片付けまで役割分担をして職員も一緒に植字を楽しんでいる。昼食週間献立カレンダーを作成し、美味しく食事ができるように心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合った食事と水分量を提供しつつ、無理のないよう声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けとスタッフが介助し清潔を保てるよう努めている。必要時には歯科往診にも対応するよう体制を整えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間や排泄のサインを見逃さず、声掛けや必要な介助を行う事でできる限りご本人の力でトイレで排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレ排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し必要に応じて歩行運動や腹部マッサージ、水分の促し等行い便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調を確認しゆっくりと満足のいくよう入浴を楽しんでいただき、必要時には介助を行いながら支援している。	基本週2回の入浴を支援している。利用者の体調や希望に添えるよう支援しているが、入浴が苦手な利用者にはタイミングを含め柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせご本人が休みたい時に自由に休息を取っていただいている。又、夜間常眠れない様子があれば安心して休んでいただけるよう必要な対応を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書をファイリングし職員が常に確認できるように設置している。また、ご本人に変化があった場合には主治医に報告し内服変更の相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力を活かせる作業をしてもらい日々の生活に張り合いを持って過ごしていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症蔓延のため外出を制限しているが、通常であればご本人やご家族からの希望により美容室や買い物、旅行に出かけられるよう支援している。	家族の希望で美容室や買物、近隣の散歩など支援していたが、現在のコロナ禍で外出は限られている。家族の協力を得る外出については、感染症予防を施した上での外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の気持ちを尊重しご家族の同意の下お金を所持されている方がいる。その他の方は職員が買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方が1名いる。希望があれば事務所の電話を使用しご家族や知人と会話をしていただけるよう支援している。また、手紙や葉書のやりとりもスムーズに行えるよう必要物品を用意する等対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションや行事等を掲示したり季節ごとの飾り物で楽しみを感じて過ごしてもらえるよう配慮している。	共用空間は明るく清潔に保たれている。感染症予防の為、温度・湿度管理や定期的な換気を施したり、アルコール消毒もこまめに行われている。壁にはレクリエーションや行事等の掲示、季節感ある飾り付けされてる等、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の状況により席の配置を変えよりよく生活できる状況に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や衣類等を持ってきていただき、ご本人が居心地のいい環境で生活できるよう支援している。	居室は収納スペースや居住スペースが広くトイレが設置されている。使い慣れた家具や仏壇、テレビ等を持ち込み、家族の写真や手作り品などが飾られ、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全に生活できるよう手すりを設置して一人ひとり自立し過ごせるよう支援している。		